

# 第15回 「東海財界倶楽部」例会 柴田和範氏を招いて開催



講演を行う柴田和範氏

東海地方で活躍する経済人などの異業種交流会「第一五回東海財界倶楽部例会」が八月二十三日、名古屋市中区・東急ホテルで開催され、会員約三〇人が参加。当日の講師、日本公認会計士協会東海会の柴田和範会長の講話を聞いた後、和やかに歓談した。

講話の演題は「公認会計士協会の果たす役割」。柴田会長はアベノミクスの第三の矢「成長戦略」として策定された再興プランで公認会計士にかかわる施策について説明。

① 攻めのコーポレートガバナンスの

更なる強化。② 持続的成長に向けた企業と投資家の対話促進。③ IFRS（国際財務報告基準）任意適用企業の更なる拡大などについて述べた。

②では企業情報の開示方法の見直し。

①では取締役会や取締役の役割・責任を明確にして早く正しく意思決定をする、と同時に企業情報の開示の迅速化のためのルールの見直し。

直し、株主総会日程の分散化などに関連して会計士協会からの提案などを説明。

③では二〇〇八年のG20首脳宣言で示された「会計における単一・高品質な国際基準の策定」に向けたIFRSの任意適用企業の増加について、日本企業の対応状況を説明。外国からの投資をしやすくするための施策の一つだが、さらに会計士協会の体制強化や研修強化、IFRSアジア・オセアニアオフィスへのスタッフ派遣、シンポジウム開催などの取り組みを述べた。

また公認会計士の質の向上について、信頼回復に向けた取り組みや国際的な人材育成の必要性などを指摘した。

続いて公認会計士試験の志願者と合格者数減少など業界の現状について説明。さらに地域経済活性化に向けた地方公共団体会計の統一基準化、幼稚園・こども園や農協、医療法人、社会福祉法人の外部監査導入、中小企業支援などの動きについても解説した。